

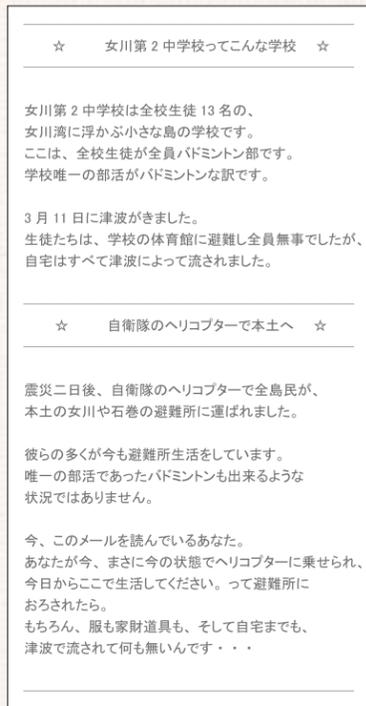
More Action!

被災地のバドミントン部をお客さんと一緒にサポート



東日本大震災後に、個人的に東北でボランティア活動を行なった須田さん。現地で活動中、被災した女川二中の全生徒13名がバドミントン部と知り、お客さんにメルマガで協力を依頼。見てきた現状を伝えながら「彼女たちがバドミントンを楽しめるよう、自己負担ですがお手伝いいただけませんか?」と声をかけると、約20名の方が賛同。多くのお客さんからシャトルなどバドミントン用品の寄付も集まり、練習会を実現。被災地でバドミントンを楽しめる機会を作った。

1 通のメルマガがお客様の共感を呼んだ



実際のメルマガは200行に及ぶため一部を抜粋。どうして練習会をやりたいのか、現地の状況やバドミントン部の話などが語られ、最後に練習会への参加を募った。

カンボジアの子どもに教育を！「頑張らないバドミントン研究会」の取り組み

1 ページ&メルマガで募集支援の詳細も報告



チャリティ大会の募集は主にメルマガとページで行なう。ページ上では寄付金などの地域を支援するもので、何人の学生のために、いくつの机や椅子を購入し、どのように子どもたちの環境が変わったかが詳しく報告される。毎年大会が終わる度に、報告を更新している。

2 お客さんと一緒にチャリティ大会参加費+αが寄付に

初回は24チームだった大会も、2011年開催の第5回、6回では各36チームに増加。「バドミントンを楽しみながら世の中の役に立っているのがうれしい」「社会貢献に興味があって何かしたかった」というお客さんが参加。大会と同時に有志でバザーを開催することも。



3 カンボジアの学校を継続支援バドミントンができるその日まで

現地で継続的な支援を行なうNPO法人を通じて、地雷が最も多く敷設されたカンボジア北西部の地域に収益を寄付。第1回と第2回の収益は地雷撤去に。第3回は屋根と壁の修理、第4回以降は学習机と教卓の設置に使用。少しずつ環境整備を進めている。



今月のちょっといい店



代表取締役
すだ よしみつ
須田 祥充さん

頑張らないバドミントン研究会 <http://www.rakuten.co.jp/ganbaranai-bad/>

オープン日 2008年5月26日
ジャンル バドミントン

バドミントン歴30年の須田さんが運営するバドミントン用品の専門店。店名の頑張らないは「頭を使い、戦略を立てよう」という意味。選手を目線に立ったオリジナル商品に加え、テクニックを解説したメルマガが人気。お客さんとの交流にも積極的で、全国各地で講習会を実施している。

06年に地雷被害の課題解決に取り組むNPO法人「テラ・ルネッサンス」の理事長の講演を聞いたことが、支援を志したきっかけです。カンボジアのある地域では90年代後半まで続いた内戦のあと、残された地雷による犠牲者が多数出ている。経済発展からも遠ざかり、貧困から学校へ通えない子どもも多くいる現実を知りました。自分は国内でバドミントンの普及に注力してきましたが、スポーツを楽しむことも許されない現実があることに衝撃を受けました。自分だけではなく、お客さんと一緒に向き合える方法がないかと考え、07年に「チャリティバドミントン大会」を開催しました。

大会は男女6人1チームで競う団体戦です。1チームの参加費1万2千円を寄付金に充てるというもので、会場は主に地元大阪の体育館。最初の呼びかけには最終的に24のチームが集まってくれました。以降、毎年続けていて、現在までにこのべ7度の大会を実施しました。メルマガやページで募集や報告を続けるうちに、賛同してくれる参加者は年々増加。ここ数年は36チームに枠を広げて募集していますが、すぐに定員になってしまいう状況です。



1回目の大会が終わった後に、集まった寄付金を直接渡すため、カンボジアに向かいました。現地の子どもたちにバドミントンの楽しさも伝えられればと、お客さんに寄付していただいたラケット60本やシャトルも持参しました。しかし、現地はそれどころではなかった。地雷で足を失い義足で生活する人が目につき、孤児院に行けば人数分の机も椅子もなく、教室とは名ばかりの建物がボツンとある状況。現地で子どもたちとバドミントンをしながら、この子どもたちのびと学び遊べる日まで支援を続けよう決めました。帰国後には自分が見聞したカンボジアの現状を、ページでお客さんに報告。机や椅子の整備、壁の修理などの状況も伝え、環境をもっとよくしていくという呼びかけを、毎年繰り返して行なっています。お客さんの理解も深まっていると感じます。チャリティ大会が近くなると「カンボジアの学校補修に」と寄付の申し出があったり、

👍 それいーね!

— 店舗さん発 ちょっといいことプロジェクト —

店舗さん発のちょっといいことがお客さんの心に響いて広がったプロジェクト。世界のどこかで誰かが笑顔になれる「それいーね!」な活動をお届けします。

バドミントン大会の参加費を寄付カンボジアの子どもの教育を支援

大会同日にお客さんの協力により、収益を寄付金にするチャリティバザーが企画されたり。大会当日も、参加者以外の方が、カンボジアの子どもたちの力に会場を訪れることもあり、毎年30万円を超える寄付を継続できています。

昨年には、被災地支援を目的に、関西だけでなく関東でのチャリティ大会も実施。お客さんを巻き込み、被災地で講習会もやりました。今後もこのチャリティ大会を10回、20回と継続して、カンボジアの子どもたちをサポートしていきたいです。カンボジアでバドミントンができる環境を整えられるその日まで、支援の輪を広げたいことを続けていきます。